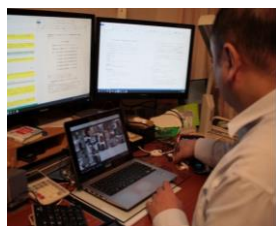




## COVID-19(新型コロナウイルス)感染拡大を受けて

COVID-19(新型コロナウイルス)の感染拡大を受け、各施設の皆様は大変なご苦勞をされていることと思います。くれぐれも皆様ご自身、ご家族、そして患者様の健康をお守りくださいますようお願い申し上げます。

京臨技主催の学会や各事業が延期や中止となり、集会も自粛要請されています。毎月開催している定例理事会も4月はWebで開催しました。



新年度最初の理事会であり早急に議論・決定すべき議案が多く盛沢山な内容でしたが、数回のテスト会議を経て滞りなく開催することができました。

各役員のWeb環境にばらつきがありファイルの共有など課題もありますが、感染拡大防止のため当分はWeb会議を続けることといたします。



## 精度管理報告

### 京都府臨床検査技師会ホームページ



Check here !

令和元年度の精度管理調査は61施設（参加数62件）が参加されました。令和元年度もJAMTQCシステムを使用して行うことになりましたが、参加施設におきましては操作に慣れてきたのではないかと思います。今回も各研究班共に評価をA～Dに統一すること、正解率は70%以上を目標にすること、評価の思わしくない施設にはアドバイスを付記するというで行いました。

新型コロナ感染の拡大により合同報告会は開催することができず、参加を予定していただいていた皆様には申し訳ありませんでした。各分野のまとめは各研究班担当委員により作成され、京都府臨床検査技師会ホームページの「会員のページ」にて公開しております。ぜひご覧ください。

今後よりよい精度管理調査事業ができるよう、担当理事、各研究班精度管理担当者が協力して行っています。

(文責 宇治徳洲会病院 江口 光徳)

## 診療報酬改定2020

診療報酬改定時期になると医師や管理課など他職種の方々との交流が増します。今年度の改訂では全体的に浅く減点された項目が多かったようです。

検体系では、血液採取料（静脈）の増点があり、遺伝子関連の検査は判断料が新設されました。遺伝子関連はとても進歩している印象です。

生理系では、トレッドミルなどの検査は診療ガイドラインを踏まえたエビデンスに基づく診療を進めるため、検査の実態及び有用性等を踏まえ評価が見直され増点しました。質の高い臨床検査の適切な評価としてこれを契機に検体検査の標準化がさらに進みそうです。超音波検査の報告方法では臨床検査技師の名称が入り踏み込んでいますが多職種からの異議もあるようです。

ベテラン技師に馴染みのある「Bence Jones蛋白定性」が、保険収載項目から削除されたことには哀愁を感じるようです。

# 予告

## 京都医学検査学会

2021年2月23日(火)開催予定

延期となりましたが  
より充実した学会を企画し、盛り上げて  
いきたいと思っております！！

開催日は **2021年2月23日**！

プログラムや会場は決まり次第  
HP等でお知らせいたします！

お待ちしております！

### 2020年度診療報酬改定率

本体	全体
 医師らの 技術料、人件費 など	0.55% プラス 
 薬価	1.01% マイナス 
差し引きで 0.46% マイナス 	

## 初級・職能開発講習会

令和2年2月9日（日）小雪がちらつく中、初級・職能開発講習会を開催しました。宮島会長による講演「医療現場が求める臨床検査技師像」では、未来の臨床検査技師のあり方を実現するためにどうしていくべきかを、国政で経験されたことも交えてお話いただきました。

深澤理事による講演「医療現場が求める臨床検査技師の育成」では、認定試験制度、eラーニング、チーム医療、病棟検査技師などについてお話いただきました。

午後はグループディスカッション。意見交換の一部をご紹介します。



### 「当直業務への不安に対する取り組み」

- ・指導する先輩によって内容が異なる場合もあり困惑する
- ・他の職種の業務や専門用語が分からない

まずはコミュニケーションを取ろう  
自分から挨拶することから始めてみよう

### 「eラーニング受講者を増やすには？」

- ・認定資格取得後の更新が出来るプログラムも設定する
- ・各学会のセミナーや基調講演をWebで視聴できるようにする

「ベテラン技師にも魅力ある内容に充実していきたい」  
深澤理事から意欲的な言葉を頂いた

午前中の講演を聞いたことでより深い問題意識を持って取り組めたことに加え、少人数でのグループだったこともあり、全員参加で活発にディスカッションが出来て、とても有意義な意見交換会となりました。

(文責 和田香織・齊藤祐巳子)



## 流行ってますね

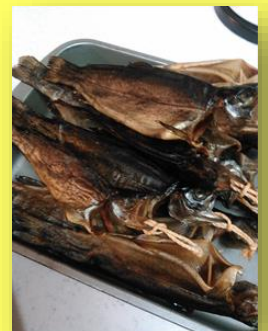
ちょっと趣味のお話



この数年、燻製が流行っています。外を歩いても燻製を燻す薫りがということがしばしばです。また大手家電メーカーから燻製する為の機器が販売されたりして結構手軽に出来るようになりました。煙だけを発生させる小型の機器も有り瞬間スモークなどに重宝することでしょう。何でもかんでも燻製にするのはちょっと・・・という方もおられるでしょうが。

さてそんな燻製ですが、我が家では数年前から川魚の燻製を作成しています。山崎(そうサントリーの工場があるところ)の近くに尺代という地区があり、そこに渓流釣りを楽しめる管理釣り場があります。釣り前に川魚を放流してくれるので子供を連れて行ってもある程度の釣果は望めます。食べきれない分をということで保存食にする為燻製にすることに。

一般的な作り方は、ソミュール液(10~30%の食塩液にスパイスやハーブが入っている液体)に、内臓を処理した川魚を1日漬込み、塩抜き1時間程度、お腹を爪楊枝で開き1日乾燥、そして燻製作業で完成です。1~2日ほど冷蔵庫で寝かせると味が落ち着きます。1か月程度は冷蔵庫で保管も可能ですし、とにかくお酒に合います。ちなみにベーコンなど肉類は1週間漬込んでいるかたもいるようです。台所でも換気をちゃんとしていれば、最近は道具が充実しているので簡単に行う事が出来ます。ご興味のある方はチャレンジしてみてください。(文責 相田幸雄)



**編集後記** ある進学情報サイトに、臨床検査技師の適性についてこう書かれてました。「生物や科学の分野に強く、広く関心を持っている人が望まれ、また病気や異常を正しく診断できるような確かな観察力、判断力、慎重さを持って臨まなければならない。標本の制作をはじめ細かい作業を行うことも多いので、器用な人だとなおよいだろう。特に病院では、生体検査を通して患者と接することが多い。患者が不安にならないよう、思いやりや気配りを持って接することが求められる。また、ほかの医療スタッフとチームを組んで医療に参加することもある。特に救急病院では緊急の患者の命を救うためにチームワークがとても大切になるので、協調性を磨いておくといいたいだろう。」なかなかのハードル。(さ)

発行所 (一社)京都府臨床検査技師会  
発行責任者・編集者：白波瀬 浩幸  
編集者：齊藤祐巳子 相田幸雄 佐藤晴久 山田雅  
〒606-8155京都市上京区千本竹屋町東入ル主税町910番地  
TEL・FAX 075-821-6711

<http://plaza.umin.ac.jp/kamt/>  
会員専用ページ：ID kamt PW kyoringi

ご意見等は、京臨技ホームページのトップページ最下部  
「お問合せ」ボタンから